

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500767
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか
所在地	伊予郡砥部町高市1318番地
自己評価作成日	平成22年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川に囲まれ、自然豊かな環境の下で、利用者の心の安定と、身体機能の維持回復を目標として支援しています。窓から四季折々の風景を楽しんだり、ホームの畑で野菜を育て、収穫の喜びを感じ、調理に参加することで、自分の役割に生きがいを感じ、食べることへの意欲も感じます。何気ない日々の生活の中で、ただ時間を過ごすことのないよう楽しく生活していただくことを目標に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、平成17年に1ユニットで開設され、砥部町(旧広田村)の深い山々に囲まれた自然が豊かな集落にある。その造りは、故郷を想い出すような雰囲気を持っており、その中で季節の移り変わりを身近に感じながら、職員は利用者の日々の暮らしを支えている。開設者は地元出身であることから、地域との交流は盛んに行われており、野菜の差し入れや散歩中の声かけは当たり前に行われ、正月の餅つき行事には、近隣や家族等を含め多くの人たちが集い賑わっている。また、同地区の小学校で山村留学が実施されており、世代を超えた交流も積極的に行われており、ホームがその地域に根付いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームぽかぽか
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	大平 真里子
評価完了日	平成 22 年 10 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 独自の運営理念を作り、職員が意識して取り組めるように、職員に配布したり、リビングにも掲示している。</p> <p>(外部評価) 代表者は「住み慣れた環境」「家庭の延長」「生き生き暮らす」という理念を大切に、ミーティング等を通して職員一人ひとりに意識づけを行い、ケアに活かしている。また、ホームの名の通り「ぽかぽか家族」を基に、利用者一人ひとりのできることを把握し、日常の役割を持つことで、生き甲斐と自立支援に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や老人会に参加したり、ホーム内での行事に地域の方を招待したり、地域のボランティアの方にお手伝いしていただくことで、交流している。</p> <p>(外部評価) 地域の行事に参加したり、地域の人にホーム内の行事等に参加してもらっている。近所からの差し入れやホームのから野菜をお裾分けする等、地域との交流は盛んである。また、代表者が呼びかけた“ボランティアオアシス”は、地域の人たちで構成されホームの行事や日常のボランティアとして、利用者との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議等を活かして認知症についての勉強会を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービス内容やサービス評価について実施後に報告して、意見や要望等を聞くようにしている。運営推進会議の会議録を職員に回覧し、共有している。	
			(外部評価) 運営推進会議には、老人会長や民生委員以外に駐在所の方や近隣の住民にも参加を呼びかけ開催されており、様々な角度からの意見が出されホームの取り組みに活かされている。職員も交代で参加することで、出た意見を職員も受け止めやすくなり、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や、介護相談員の派遣等の機会を利用して関係作りをしている。	
			(外部評価) 運営推進会議や日頃の相談を通して、ホームに対する意見を求めたり、利用者の暮らしぶりやホームの実情を具体的に伝えることで、運営等について気軽に相談できる関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホームとしては、身体拘束はしない方針で取り組んでいる。職員にも正しく理解してもらえるようにマニュアルによる再確認、研修等の機会を設けている。	
			(外部評価) ミーティングを利用し、定期的にマニュアルを見直す機会を設けることで、日頃から職員の意識統一を図っている。玄関は夜間以外、常に鍵を掛けないようにしており、利用者の外出傾向を把握しさりげなく一緒について行っている。近所の見守りや連絡をしてもらえる関係を築くことで、自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について話し合う機会を作り、事業所内での問題が起こらないように努めている。利用者と家族との関係については、面会の際などに様子を確認するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の機会を利用して知識の向上を図るようにしている。必要に応じてその都度対処するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、利用者や家族の意見や要望を聞き、不安なく入所していただけるように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に、苦情に関する説明を行い、当ホーム内の苦情受付窓口や行政機関等の苦情受付の案内を行うようにしている。苦情がある場合には、担当であるホーム長が対処することとなっている。 (外部評価) 家族から意見や要望を聴くために、推進会議等の案内には意見欄を設けたり、面会時や行事等の際に話しやすい雰囲気を作るなどの工夫をしている。現在でホームに対する苦情等はないが、もし出た場合にはホーム長を中心に職員全員で話し合いそれに対応する仕組みはできている。	家族から面会や行事の際に意見を聴く機会はあるものの、家族会等の設置はなく積極的な意見交換の機会は少ないと感じる。家族にホームの食事を食べてもらう等、家族からの積極的な関わりを持てる機会を設けることで、意見や要望が出しやすい環境となり、より一層家族とホームの関係が円滑なることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティング等で職員の意見を聞く機会を設けている。日頃から代表者が積極的に職員との会話をする事で個々の意見も聞くことが出来ている。</p> <p>(外部評価) 代表者や管理者はミーティング等を通して、職員の意見を聴く機会を設け、職員が意見や苦情を言いやすいように、良好な関係を築く努力をしている。また、いつでも意見や要望が記入できるように無記名でメモを貼り付けられるボードを用意しており、小さな意見でも吸いあげる工夫をしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務時間帯や休日などについては、出来る限り職員の要望を取り入れるようにしている。処遇改善交付金による賃金改善に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 積極的に研修への参加を呼びかけている。研修参加を優先としたシフトの変更により、研修へ参加しやすいように配慮している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協会に加入し、研修などに参加しやすい状況を作っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前から本人や家族等から本人の思いや要望を聞いたり、入居後も日常生活の中から本人の思いを把握するよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等からの要望についても聞くようにしている。安心して入居していただけるようにその都度対処している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の意向を聞き、優先すべき支援について見極めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、一緒に料理やレクリエーションなどを行うことで、自然に寄り添い利用者の思いを感じ取れるように関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの様子や受診について毎月お便りで報告している。ホームでの行事や外出する際などには、家族にも声かけするようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人がホームを訪ねて来られる人もいる。家族の希望で外出したり、本人の希望があれば家族に伝えるようにしている。 (外部評価) 地域に暮らす知人が訪ねてきたり、家族の協力を得て生家へ行ったりなど、入居前の馴染みの関係を継続させるための働きかけを行っている。また、馴染みの関係を継続しにくい利用者に関しては、元気な頃の話や家族から聴取し、一人ひとりの生活習慣を尊重しながら支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話も日常的に行われている。職員は、見守りながら関係が悪化しないように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も必要に応じて対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の言動やしぐさ、表情などから意向を読み取り、思いが達成できる様に支援している。	
			(外部評価) 利用者との日常の会話や家族からの情報で、利用者がどのような暮らしをしたいかをケアカンファレンス等で検討し支援につなげている。また、意思疎通が困難な利用者については、日頃の関わりの中で、ちょっとした表情を見逃さないように心がけ、ケアの中で気がついたことがあれば、話し合いを重ねながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の日常会話やケアプラン確認時に家族に協力していただき、本人のエピソードや嗜好を聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できること、できないことを把握することに努め、職員間で情報の共有をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の状況や気になることがあれば担当者会議の際に職員で話し合い、介護計画に反映されている。家族の要望も聞き、介護計画に取り入れるようにしている。 (外部評価) 本人の想いや意向は、日頃の関わりの中から十分に把握し、家族からは面会や手紙・電話を通じて聴取し、介護計画に反映させている。また、ミーティングやカンファレンスを利用して、その人らしく暮らしていくための個別計画になるよう職員全員で取り組み、日々のケアにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日利用者の個別記録や申し送りノートを利用して情報の共有をしている。気づいたことがあれば申し送りの際に口頭でも連絡するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の意思を尊重し、個人のしたい事に対し職員間で声かけ役割を分担しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ホームの行事や運営推進会議等の機会を利用して地域の人のつながりを持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者や家族の希望があれば、入居前からのかかりつ け医に受診するように配慮している。医療機関の変更 や、予定外の受診の際には家族に相談している。</p> <p>(外部評価) 本人の希望する医療機関への受診を、ホームの看護師 が中心に支援を行っており、家族への健康面の報告 は、緊急時以外は定期的に手紙や面会時に行われてい る。皮膚科・耳鼻科・歯科等への専門科への受診につ いても、主治医と連携を図り、適切に行われている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の様子に変化や気づきがあればその都度看護師 に連絡し相談している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院の際には、家族や医療機関との連絡を取り、情報 交換や利用者の症状の把握に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用者の状態に変化があればその都度家族と相談して いる。</p> <p>(外部評価) 看取りや重度化した利用者の介護の経験は今までにな く、緊急時には救急病院への搬送となっている。でき る限りホームでという利用者や家族の希望を踏まえ、 重度化しても安心してホームで生活ができるよう、今 後どのような体制を整える必要があるか職員間の意識 も確認しながら、検討していきたいと考えている。</p>	<p>利用者の重度化に伴い、看取りに関するホームの体制 の検討が必要だと考える。同時に、ケアする職員の意 識改革も大切であるため、重度化や終末期に関する話 し合いの場を設けたり、外部研修へ参加するなどし、 ホーム全体として取り組んでいくことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応の仕方についてはマニュアル化し、定期的に見直すようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の防災訓練に参加したり、消防署に協力していただいて防災訓練を行っている。気付いたことを話し合い、安全な避難方法を考えるようにしている。 (外部評価) ホームのある地区は土砂警戒指定区域に指定されているため、地域主催の避難訓練に参加しホームや利用者の状況を知ってもらうきっかけとなっている。防災に関して、ミーティングでも取り上げ話し合いを行っている。近所にある消火栓の使用方法を把握し、ホーム内の火災や地域の災害へも対応できるよう検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけや介助時には、指示を極力減らし、言葉づかいや声の大きさ等、その時の状況に応じて対応している。 (外部評価) 声かけやケアについて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮しながら対応している。また、日々の業務日誌や連絡ノートを通じて、対応した利用者について気がついたことを随時共有できるようにし、職員一人ひとりがケアにおいて「その人らしさ」を尊重できるよう心がけるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話での意思の疎通が出来ない利用者との関わりでは、表情やしぐさなどを見逃さず理解するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者それぞれの個性を理解し、一人ひとりのペースを尊重するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者自身で洋服を選んでいただくようにしている。職員は見守り、好みなどを把握するようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえから片付けまで、利用者がそれぞれに関わることで、食事への関心をもつことができています。 (外部評価) ホームの畑で利用者と一緒に収穫した野菜や、行商の魚などを献立に加えて季節感を感じることができる食事内容にしている。また、利用者一人ひとりの力を活かしながら一緒に調理することで、利用者自身の自信や張り合い、喜びにつなげている。	お正月やクリスマス会などの行事食を取り入れているが、年に数回であることから利用者や職員の誕生日などを利用し行事食を増やし、食事に対するより一層の喜びや楽しみを広げ、利用者と職員が同じ目線で食卓を囲む場とするなど「食」を通じた場面づくりの工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを取り入れることは難しい。栄養が偏らないようにしている。水分だけでは摂取量が少なくなる為、食事でも水分確保するようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者自身で歯磨きしている。様子を見て声かけしている。口腔状態について観察するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握する。可能な限りトイレでの排泄を目標としている。日頃から運動などで身体機能の維持に努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンのチェックを行い排泄リズムを把握し、トイレ誘導等を行っている。また、自尊心を損ねないように、一人ひとりに合った声かけや対応ができるよう、ミーティングにおいて共有し排泄介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取に気を配り、毎食前の運動や散歩など、日常生活の中での改善に取り組んでいる。アロエジュースを使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は決まっているが、声かけのタイミングに気を配り、気分良く入浴していただくようにしている。	
			(外部評価) 希望があれば毎日の入浴は可能であるが、利用者の負担等も考えて、冬場は最低週2回、夏場は最低週3回入浴できるよう支援されている。入浴を嫌がる利用者については、家族の協力を得たり、声かけを工夫するなどし、入浴したい気持ちになるように見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりのリズムを尊重するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師に確認しながら提供している。服薬時は、必要に応じて見守り確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居前の趣味など家族と相談しながら、可能な限り取り入れるようにしている。ホーム内での個々の役割があるので張り合いをもつことができていると思う。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には近所へ散歩に出かけたり、予定を決めて出かける際には家族にも連絡するようにしている。	
			(外部評価) 外出は全員でという考えを基本に、ホーム専用のワゴン車2台で、買い物やそうめん流し、地域のお祭りなど一人ひとりが外出を楽しめる支援を行っている。また、旅行好きな利用者にはボランティアの協力を得て、高野山へ行く等、個別に特別な楽しみを入れるなどし、本人の意欲や自立心を保つことへつながっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持したり、使えるように支援していない。食事の材料を買い物することはある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 意思の疎通の出来にくい利用者には家族に手紙を書いてもらうようにしている。本人に渡し、希望があれば返事を書けるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎月季節に合わせた壁面制作を行っている。クラフト作業が好きな利用者は家族が面会の際にプレゼントすることを楽しみにしておられる。室内の温度調節に配慮している。	
			(外部評価) 共有空間にあるテーブル席は冬場はコタツに替え、日中はその場所で雑誌を読んだり、食事の下ごしらえをしたりと、各々が自由に過ごせる空間となっている。また、入居者と一緒につめたという飾りつけには季節感とホーム全体の一体感があり、自分の家だという意識が高められるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになりたい時には居室で過ごされる。リビングでは利用者同士の会話もみられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前から使用していた馴染みの物を持って来ていただくようにしている。本人が作った工作を飾られている人もいる。	
			(外部評価) 居室には備え付けのベッド、タンス、カーテンがあり、殺風景な部屋にならないよう、入居前や入居後にも家族に働きかけ使い慣れた馴染みものを持ち込んでもらい、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、本人の趣味の物や家族の写真等を飾るなど、部屋全体が落ち着けるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の位置やトイレへの移動などを考慮してリビングの席を配置している。	